

守山まるごと活性化プラン検討委員会
第4回 学区別会議（中洲学区）

日時：平成25年9月25日（水）

19：30～21：30

場所：中洲会館

次 第

1. あいさつ
2. 説明
 - 本日の進め方
 - 第3回検討結果の説明
3. 意見交換（テーブル毎に）
 - 前回のふりかえり
 - 学区のまちづくりの取り組みを考える
4. 結果の発表・共有
5. 次回の予定など

守山まるごと活性化プラン検討委員会（学区別会議）委員名簿

【 中洲学区 】

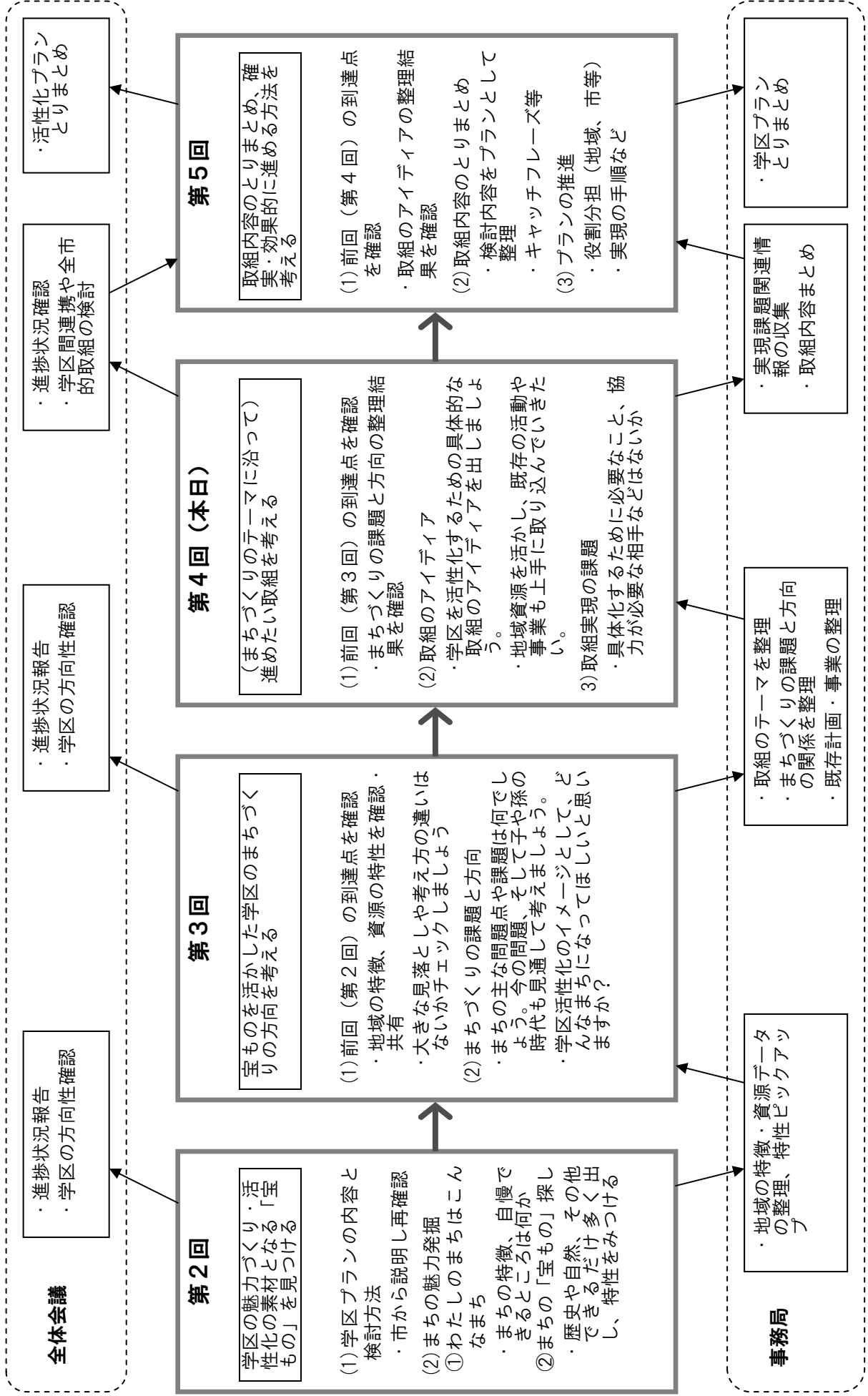
H250715 現在 敬称略

No.	自治会	名前	
1	新庄	中島 保男	なかじま やすお
2	新庄	川村 晃夫	かわむら あきお
3	新庄	中島 耕治	なかじま こうじ
4	新庄	山口 幸子	やまぐち ゆきこ
5	服部	田中 勝次	たなか かつじ
6	服部	津田 昭憲	つだ あきのり
7	服部	大塚 唯昭	おおつか ただあき
8	服部	石原 紀代子	いしはら きよこ
9	立田	本城 眞佐一	ほんじょう まさかず
10	立田	木村 穂	きむら みのる
11	立田	井入 誠一	いいり せいいち
12	立田	深尾 あや子	ふかお あやこ
13	幸津川	伊藤 五作	いとう ごさく
14	幸津川	樋上 隆	ひのうえ たかし
15	幸津川	下出 壽宏	しもで としひろ
16	幸津川	上路 美智代	うえじ みちよ
17	小浜	中西 雅次	なかにし まさつぐ
18	小浜	田中 弥	たなか わたる
19	小浜	高倉 正	たかくら ただし
20	小浜	中島 てる子	なかじま てるこ

事務局

- ・濱崎一志（アドバイザー：滋賀県立大学 人間文化学部教授）
- ・井入 秀一 ・木村 芳次 ・川上 かよ子 ・吉原 史雄
- ・奥村 彰彦 ・前田 雅人 ・貞松 純子

学区別会議の進め方



守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第3回 学区別会議 [中洲学区]

平成 25 年 8 月 21 日（水）午後 8 時から中洲会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 3 回学区別会議を開催しました。

中洲学区にお住まいの住民 15 名に、滋賀県立大学の濱崎先生や学生さんも加わり、まず、前回会議で出された意見について、大きな見落としがないかなどふりかえりをしました。次に、学区のまちづくりを進めていく上での課題や方向性について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：本城学区長より
- ②内容説明：会議当日のプログラム内容、第 2 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回会議のふりかえり』、
『学区のまちづくりの課題と方向』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲結果を発表してみんなで共有

テーブル毎に中洲学区の『まちづくりの課題と方向』について話し合いました

- 3つのテーブルに分かれ、前回会議で出された中洲学区の『良いところ』や『たからもの』の確認を行い、さらに、それらの特徴をもとに、『学区のまちづくりの課題』を話し合いました。
- 『たからもの』としては、地域でお金を出し合って助け合う仕組み「講」が抜けているという意見がありました。伊勢講、愛宕講、頼母子講（融通講）、行者講など、目的に応じてさまざまな「講」を活用してきた中洲の歴史・文化が感じられました。また、中洲地区の世帯数分のイルミネーションを飾る「ふれあいの灯」は外せないという意見がありました。
- 『まちづくりの課題』については、「野洲川や伏流水に親しめなくなっている状況」と「少子高齢化と人口減少」、「地域へのつながりの希薄化」の3つが各テーブルから共通して上げられました。
- 『今後のまちづくりの方向性』としては、「野洲川で水や自然に親しむことのできる仕組み、河川敷の公園化、きれいな水が里中を流れホテルが飛びまち」、「人口減少を食い止めるため、地区計画の検討・策定を進める」、自治会単位ではなく「学区全体で協力できることを考える」など、今後のまちづくりのヒントになるような意見が多く出されました。



■滋賀県立大学 濱崎先生のコメント

人のつながりの強さや人柄の良さといったものが、少子高齢化によって薄れつつあるなど、たからものが「たからであったもの」になりかけているという意見が出ていた。課題の中に、水路に水が流れなくなったという意見があったが、滋賀県では川から埋渠で綺麗な水を引いている所がいくつかあり、昔は幸津川でも行われていたとのことであった。発想を変えて自由に考えると、何か次に繋がることも出てくるのではないかと思う。

守山まるごと活性化計画 学区別会議実施記録 第3回

1. 実施概要

学区・回	中洲学区 第3回
日時	2013年8月21日(水) 20:00~22:00
会場	中洲会館
参加者	住民14人(新庄2人、服部4人、立田4人、幸津川2人、小浜2人) 濱崎先生、県立大学生1人 守山市(井入、木村、川上、坪内) 地域未来研究所(奥村、山田、前田)
会場設営	3テーブルを配置。くじでテーブルを指定して着席
実施経過	<p>1. 挨拶</p> <p>①開会挨拶(坪内課長補佐)</p> <p>②開会挨拶(本城学区長)</p> <p>2. 説明</p> <p>①本日の進め方(奥村)</p> <p>②第2回検討結果の説明(奥村)</p> <p>3. 意見交換(テーブル別ワーク)</p> <p>①前回のふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議結果を整理した資料を見ながら、抜けているたからものの追加、分類の再検討を行った。 ・地域でお金を出し合って助け合う仕組み「講」を追加するよう意見があった。伊勢講、愛宕講、頼母子講(融通講)、行者講など、目的に応じてさまざまな講を活用してきた。 ・また、中洲地区の世帯数分のイルミネーションを飾る「ふれあいの灯」は外せないという意見があった。 <p>②学区のまちづくりの課題と方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区が抱える問題点や課題について議論したところ、各テーブルとも共通して「水」と「高齢化・人口減少」に関する意見が数多く出された。 ・カードは模造紙に貼り、グルーピングして概略の特徴を整理した。 <p>4. 結果の発表・共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーブル毎に参加者の代表が地域の課題、課題に対応するための方針について検討結果を発表。 ・テーブルに共通して、「少子高齢化」、「野洲川や伏流水など水」「地域へのつながりに対する意識の変化(希薄化)」に関する課題が挙げられた。 ・今後のまちづくりの方向として、「野洲川で水や自然に親しむことのできる仕組み、河

川敷の公園化、きれいな水が里中を流れホテルが飛ぶまち」、「人口減少を食い止めるため、地区計画の検討・策定を進める」、自治会単位ではなく「学区全体で協力できることを考える」など、様々な意見が出された。

5. コメント（濱崎先生）

- ・人のつながりの強さや人柄の良さといったものが、少子高齢化によって薄れつつあるなど、たからものが「たからであったもの」になりかけているという意見が出ていた。
- ・課題の中に、水路に水が流れなくなったという意見があったが、滋賀県では川から埋渠で綺麗な水を引いている所がいくつかあり、昔は幸津川でも行われていたとのことであった。発想を変えて自由に考えると、何か次に繋がることも出てくるのではないかなと思う。

6. 次回の予定など

- ・次回会議の開催日時は、自治会長会議で決め、市からお知らせする。

第3回中洲学区会議の様子



2. 第3回学区会議の意見まとめ

地域のまちづくりの課題やまちづくりの方向性をまとめる。

<中洲学区のまちづくりの課題>

■水に親しめなくなっている

- ① 野洲川の河川敷へ気軽に降りていけない、荒れ放題の状態で行くと危ないと言われるようになってしまった。また、川に魚が減ってしまった。
- ② 伏流水がない、集落内の川に水がない。

■少子高齢化・人口減少

- ③ 若年層世代が流出するなど、少子高齢化が進展している地域である。空き家の増加も問題。
- ④ 老人世帯、独居老人の増加や、高齢化により自衛消防が成立しなくなってきている。

■地域の伝統・行事・活動の担い手不足

- ⑤ 青年団の人数が少なくなっている。原因は人が減っていることに加え、入る割合も減少。
- ⑥ 行事のスタッフは40歳以上が多く、20~30代の参加が少ない。
- ⑦ 地域の各種行事の担い手が不足し、伝統行事の継承困難、形骸化や消滅が危惧される。

■地域産業の衰退

- ⑧ 農業の後継者不足、農地の放棄による空き地の増加。
- ⑨ 大型店進出のため自営の小売業の縮小、後継者の確保困難。
- ⑩ そもそも、若者の働く場（会社など）が少ない。

■活気あるまちづくりを阻害する土地利用

- ⑪ 市街化調整区域のため家を建てにくい。
- ⑫ 商店街などがなく、町に活気がない。また各自治会が離れているため学区の連続性が低い。

■集まる場所・イベントが不足

- ⑬ 若者が集まれる場が無く、活気に欠ける。

■公共交通が不便

- ⑭ 公共交通が不便な地域で、車に頼らざるを得ない。
- ⑮ 送迎必須の地域、特に1人暮らしの高齢者は不便。

■つながりが強すぎる

- ⑯ 地域のがんがりが強すぎることで、新たに入ってくる人にとってハードルが高い部分がある。

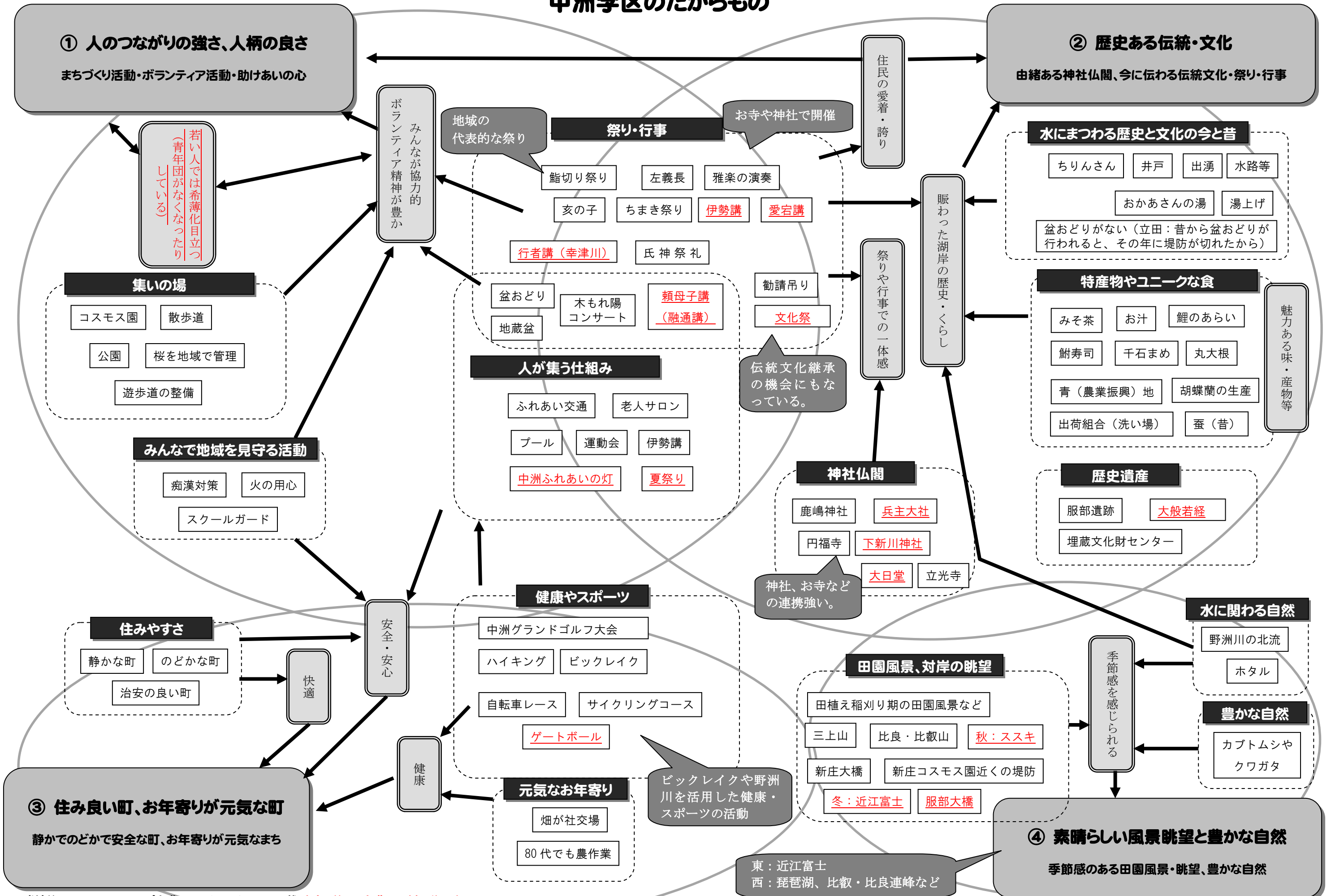
2.1 地域のまちづくりの課題、方向

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
<p>水に親しめなくなっている</p>	<p>野洲川が気軽に親しめる川になっていない 気軽に野洲川に降りていない 昔は身近な野洲川であったが、遠く感じるようになった 川があまり流れないので汚く、雨水専用のような状態 河川敷が荒れ放題の状態で近寄りがたく、危ない 川に魚が減った／川に魚が住めない ホタルがいなくなった 野洲川の伏流水が無い、集落内の川に水がない 湧き水がなく、環境が悪い 竹やぶがなくなっている</p>	<p>○ 野洲川で子どもも高齢者も楽しく遊び、自然に親しむことのできる仕組み ○ 学区全体の目線で河川敷の公園化 ○ きれいな水が里中を流れ昔みたいにホタルが飛びまちななど</p>
<p>少子高齢化・人口減少</p>	<p>高齢者が増えている 子どもが少なくなっている 80代でも農作業で若返りが必要 老人世帯・独居老人の増加 自衛消防が高齢化で成立しない 空き家が増えている（アライグマ etc が住みついている） 過疎化 3年後位になると1年生に入學する子どもが8名ぐらいいになる 若い人が少なく活気がない 若年層の流出 人口が増える要素がない</p>	<p>○ 地区計画の検討・策定を進める ○ 若い人の意見を吸い上げて方向性・解決策の参考になど</p>

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
地域の伝統・行事・活動の担い手不足	<p>青年団が少なくなっている（人が減っている＋入る割合も減っている）</p> <p>行事のスタッフが40歳以上、20歳、30歳の人の参加が少ない</p> <p>地域の各種行事の担い手が不足し、行事がこなせない</p> <p>祭りに神輿を担ぎ手がいない（土日に仕事、部活がある/若い者がいない/意識がない）</p> <p>伝統行事の継承困難、形骸化・消滅</p> <p>小学生が少なく団体行動をしなくなっているため地域の行事が伝承できない</p> <p>若年層だけでなく、全年代で地域へのつながり（近所、神社・お寺）が希薄化</p> <p>次世代（若年層）の社会的価値観の変化</p> <p>中学生～子どもができるまで人のつながりが希薄</p> <p>子どもこしは小学生だけなので、親世代のつながりがなくなる</p> <p>老人クラブに入る人も減っている</p> <p>地域とのつながり（仲間）に入れない人をどうするのか？</p> <p>ユニークな食も「過去形」になりつつある</p> <p>鮎寿司も作るのが大変。「レンジでチン」世代は敬遠</p> <p>伝えることの難しさ</p> <p>地域の役をする人は男性が多い。女性の参加が不足。</p>	<p><input type="radio"/> 学区で協力出来ることを考える</p> <p><input type="radio"/> 「食文化」の伝承は女性を中心？→女性の地域活動への参加推進など</p>

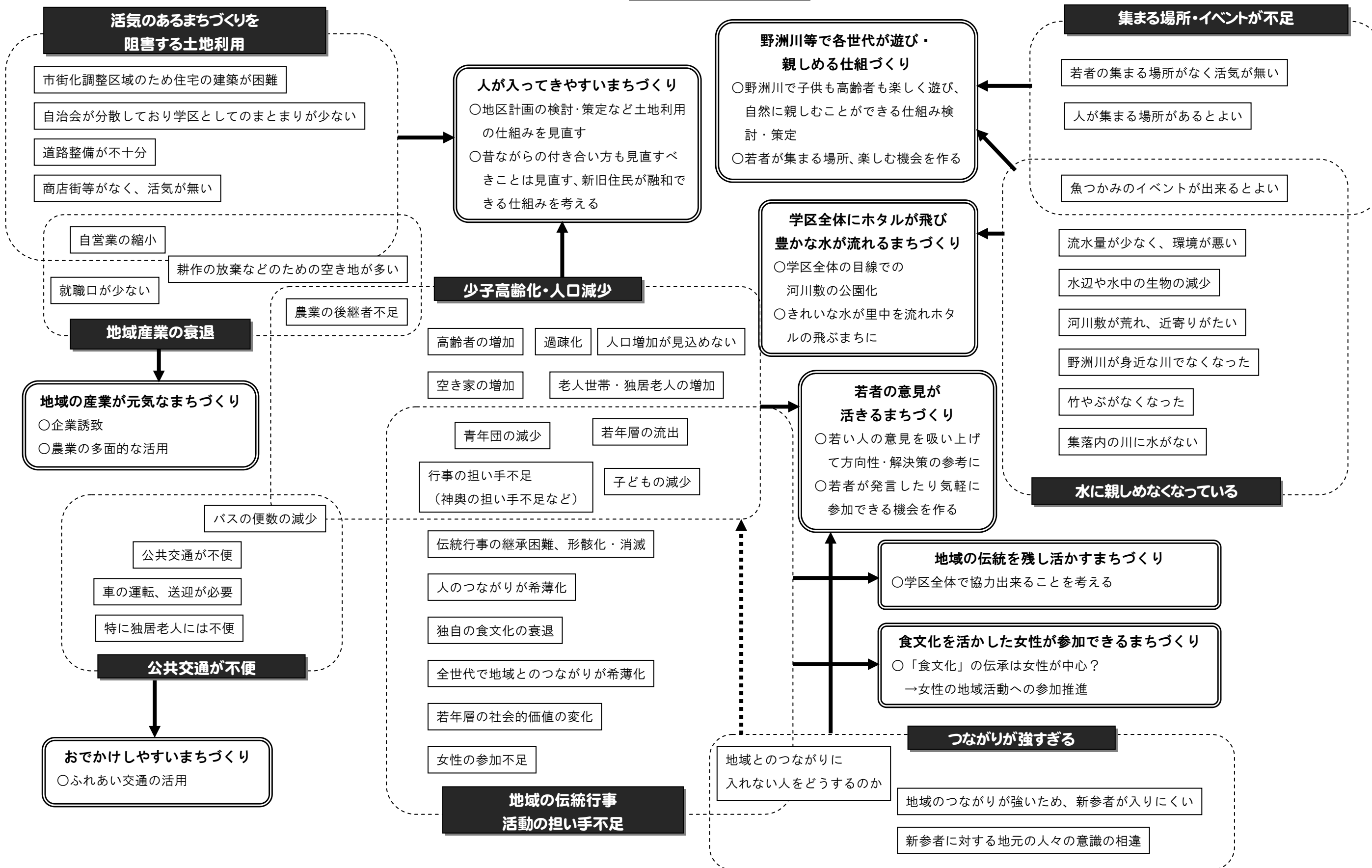
学区の課題		具体的な内容		方向性・解決策	
地域産業の衰退		空き地がやたらと多い（農地の放棄）		○ 企業を呼ぶ など	
		自営の小売業の縮小（大型店の進出のため）、後継者の確保が困難			
		若い人が農業しない			
		若者の働く場（会社など）が少ない 農業後継者不足			
活気あるまちづくりを阻害する 土地利用		市街化調整区域のため家を建てるににくい		○ 地区計画の検討・策定を進める など	
		分家ができない			
		商店街などがなく、町に活気が無い			
		各自治会が離れていて学区としての連続性が低い（点から面へ） 道路整備が不十分			
集まる場所・イベントが不足		魚つかみイベントができる場所があると良い		○ 野洲川で子どもも高齢者も楽しく遊び、自然に親しむことのできる仕組み など	
		若者が集まれる場がなく、活気に欠ける			
		人が集まる場所があると良い			
		公共交通が不便（バスが少なく、2時間に1本の時間も）			
公共交通が不便		車を使う人が多いのでバスの本数が減った		○ ふれあい交通の活用 など	
		車に乗らざるを得ない、送迎必須の地域			
		特に1人暮らしの高齢者は不便			
つながりが強すぎる		つながりが強いことで新しい人が入りにくく感じる		-	
		新しい人が入ることに対する人々の意識の違い（拒絶感を持つ人も）			

中洲学区のたからもの



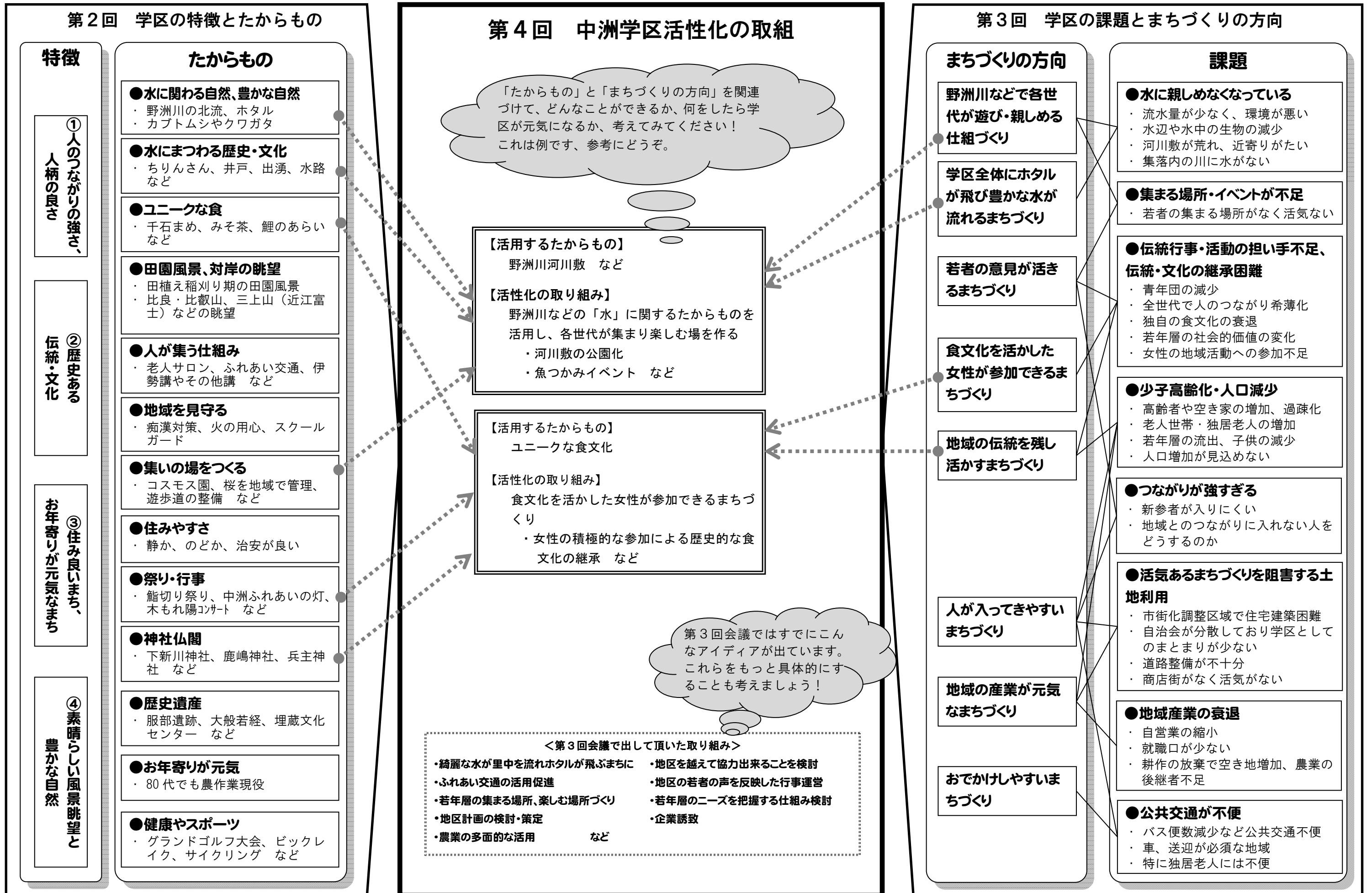
(注) 第2回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。赤字は第3回会議での追加・修正意見

中洲学区の課題・活性化の方向性



(注) 第3回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。

第2回と第3回の成果を踏まえ、第4回は中洲学区を活性化する取り組みを考えます



(注) 第2,3回のワークショップ会議で記入されたものから抜粋